



- 所在地：愛知県東海市（平成27年開設）
- 許可病床数：468床（診療科32科）
- 転倒転落発生率：3.7‰（令和2年度）
- 損傷発生率：0.03‰（令和2年度）
- 複数回転倒：68件（令和2年度）
- 身体拘束率：6.7%（令和2年度／センサーベッド除く）

② ありたい状態（＝目標）

- 複数回転倒事例がゼロ件になっている
- アセスメント結果に応じた対応策が実践できている
- 病態やADLに変化が生じたときにも、アセスメントができています
- センサーの特性を理解して設定ができています

⑤ どのようにして達成するか（＝戦略）

- 情報共有のタイミングを院内で統一し、カンファレンスを見直しする（全員共有）
- ハイリスク患者（複数回転倒患者）にリストバンドを装着する
- ハイリスク患者を訪室しやすい環境づくりをする
- 転倒転落予防クイックチャートを見直し、予防対策の標準化を図る
- L字柵の使用をリハ職と一緒に検討する
- 多職種でハイリスク患者のカンファレンスを実施し、ADLの変化を共有する
- センサーの取り扱いに長けたコアナースを育成する、センサーベッド体験を行う

④ 参考にする情報

- かつての院内での取り組み
- 一部病棟で実施していること
- 他病院での対応事例
- 他病院の選定フローチャート
- RoomT2が関わった過去事例
- メーカーからのアドバイス

① 現在の状態

- 複数回転倒者が多い（令和2年度68件）
- アセスメントと対策の紐付けが不十分
- センサーの使い方を正しく理解して使用していない
- 発報が多く、対応が間に合わないことがある
- センサー解除のタイミングが難しいと感じている

③ 今できていない理由

- モノ／ヒト／環境視点などアセスメント時の視点が定まっていない
- 行動に至った理由、センサーが鳴らなかった理由など、原因分析が深掘りできていない（要因分析不足）
- 転倒後のカンファレンスができていない（3a/3b以外は実施できていない）
- 場面毎に応じた対策方法が分からない（ベッド＋トイレ／車いすなどが考えられていない）
- 再アセスメントするタイミング／患者が分からない
- 転倒予防具の選択方法、使い方（特性）が分からない